

年間テーマ  
「共に暮らす家族を大切に!」



No.373

2020年10月1日発行  
(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

891-0113  
鹿児島市東谷山2-33-13

TEL 099-268-2084  
FAX 099-268-5738

E-mail: taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp URL: <http://www5.ocn.ne.jp/tyco/>

発行人: 頭島 光 神父

編集委員: 太田 勇次郎 岸 誠之助 上原 敏子 上釜 照美

## ペンテコステ10月号—巻頭言—

カトリック谷山教会 主任司祭 トマス 頭島光

### 「神の創造とその神秘」

鹿児島で新型コロナウイルス感染症患者が確認されて9月26日で丸半年がたちました。ほぼ今日に至るまで、私たちはコロナの字を見なかった日は一度たりともありません。もしこれがコロナでなくイエスという文字であつたら、どうだったのかと考えるくらいです。皆さん、もうコロナのことは見たくない、知りたくないと思っているかもしれませんが、これがイエス様なら、神様ならどうでしょう。もっと知りたい、よく分かりたいとは思いませんか。そこで神の創造の話し、その神秘について、私はあえて語りたいのです。

#### ◆被造界と神のご計画

環境問題と言えば、地球全体の自然とその環境問題、更には昨今の異常気象からもたらされる様々な自然災害のことを思わない日はありません。もし、皆さんの中で、神様がお造りになった自然が猛威を振るって、私たち人類に脅威をもたらしていると考えたら、それは違います。神様は確かに自然をもお造りになられました。しかし、異常気象を起こして、脅威をもたらすために造ったのではありません。そこには神のご計画があるはずです。そもそも神がお造りになられたものは自然よりも、気象や天体よりも壮大な被造界であることをよく知る必

#### ◆キリスト者の使命

マタイでは「全ての人をわたしの弟子にして洗礼を授けること」を最大の使命としています。そのためイエスは「行きなさい」と弟子に言うのは、ミサが終わると司祭が信徒に向かって「行きなさい」と言うのと同じです。教会の使命である宣教を実行するため、不可能と思われる愛の行動を実践するのです。ミサに預かるのは、イエスによって託されたこの宣教の使命を果たすためです。宣教の力を得るために、み言葉を聞きご聖体に預かります。「世に出かけて行って、また帰って来る」。それがキリストの教会です。神は教会に戻ってきたキリスト者を勇気づけ、力づけ、励ましてまた世へと送り出すのです。



#### ◆賜物としての被造界(LS76)

そこで、ここはよくよく自然について観想してください。自然とは、人間の手による理解と制御の対象である一つのシステムですが、被造界とは、父なる神の御手から造り頂いた賜物だということです。御父が私たちにこの被造界をお与えになったのは、天地万物との深い愛の交わりへと導くためであり、破壊するためではないからです。従って、私たちは頂いたこの地球資源に対して敬意を払い、大切に守り、子々孫々に伝えていく大切な使命をいただいているのです。

#### ◆「みことばによって天は造られた」(詩 33:6)

私たちの住まいであるこの大地は、混沌から生まれたものでもなければ、偶然の産物でもありません。御父である神のご決断によって、愛から作り出された被造界なのです。その被造界を人間が全能と誤解し、自然環境なるものであろうとも、勝手気ままに自由に支配することまで決して許されてはいないのです。

#### ◆被造界における人間の責任

自然が神によって造られた被造界の一部であることは確かです。しかし、決して神そのものではありません。これが神から頂いた賜物であり、もしそうだと信じるならば、人間はこれを大切に守り抜く重要な使命と責任を持っているのです。自然とともに、世界を守り、地上に生きるすべての命を守っていかねばならないのです。

#### ◆命を守る

私たちはこれまであまりにも多く地球を傷つけてきました。地球そのものもまた命であり、苦しみ喘いでいるのです。自然環境の脆弱さを知りました。その大切さも知っているはずですが、資源にも限りがあることを謙虚に認める力を神から頂いているのですから、ここで終わらせてはいけません。大切なものとして自然を守り育てる賢明な道を見出すよう求められています。(LS78)

## 皿山教会跡探訪記

ラ・サール高校ロザリオ会顧問 岩崎正幸

夏休みの8月13日、今年入学した中学1年生のロザリオ会員たちと巡礼に出かけました。その中で、私自身もはじめて訪れた、川内の皿山教会跡が印象に残っています。

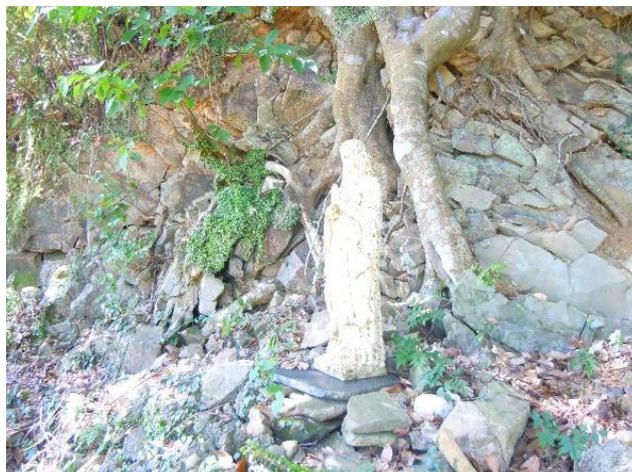
ここは川内教会から車で10分ほど、純心大学のふもとにあたる場所です。およそナビがなければ行けないような狭い道を山の中へ入った、通り過ぎると見つけられないような場所です。ナビは皿山公民館で入力しておきました。でも、どれが公民館なのかはわかりませんでした。駐車場のようなところはなかったので、近くの路上に止めました。教会跡はちょっと小高い丘の上に。階段の入り口に案内看板がありました。明治時代の1891年にパリミッシヨンのフェリエ師により、鹿児島県最初のカトリック教会として建立。でもどうしてこんな山の中に教会を建立したのでしょうか。ここが選ばれた理由は看板にはありませんでした。かつては人がたくさん住んでいたのでしょうか。それとも多くの人々が集まりやすいところだったのでしょうか。今はそのどちらでもない場所です。16年後、教会は川内の市街地に移っています。その後さらに現在の川内教会の位置に移ります。

階段を上って跡地に行きました。階段まわりの石垣がとても立派です。もともと何か由緒ある建物があったのかもしれませんが。教会が市街地に移ったあとも、建物はしばらくあったようです。1951年に人手に渡ったものの、1957年、レデンプトル会のマイエル師がここを買い戻した、とあります。ということは、ここはもしかすると今はレデンプトル会の土地なのでしょう。もしそうだとしたら、何か活用する方法はないのでしょうか。

立派な石垣を見ながら階段を上っていきます。おそらく教会があったであろう場所に、十字架が立っていました。そして、隅のほうにマリアさまの像がありました。でもしばらく手入れをしたあとがなく、像が苔むしていたのが残念でした。当時の瓦などが多数残ったまま、さほど広くもないので、土地として活用できるかどうかはわかりませんが、少なくとも鹿児島にとって最初の教会があったところ、巡礼地のひとつとして認められてもよいはずだなと思いました。まずは、マリアさまの像をきれいにしたい、と思ったのですが、このときは掃除の準備をしていなかったのと、巡礼の続きがあったため、そのまま後にしたのです。今度訪れるときには、ぜひ掃除道具を持って、マリアさまの像をきれいにしたいと思いました。それにしても、この場所はいったいもともと誰の所有なのでしょう、そして今は。気になります。今度どなたか皿山教会跡に行ってみませんか。



立派な階段と石垣 もともと何かあったのでしょうか



苔むしてしまったマリアさまの像 いつのものかはわかりません